

聴覚障害

- (1) 体験的な活動を通して、学習の基盤となる語句などについての的確な言語概念の形成を図り、児童生徒の発達に応じた思考力の育成に努めること。
- (2) 児童生徒の言語発達の程度に応じて、主体的に読書に親しんだり、書いて表現したりする態度を養うよう工夫すること。
- (3) 児童生徒の聴覚障害の状態等に応じて、音声、文字、手話、指文字等を適切に活用して、発表や児童生徒同士の話し合いなどの学習活動を積極的に取り入れ、的確な意思の相互伝達が行われるよう指導方法を工夫すること。
- (4) 児童生徒の聴覚障害の状態等に応じて、補聴器や人工内耳等の利用により、児童生徒の保有する聴覚を最大限に活用し、効果的な学習活動が展開できるようにすること。
- (5) 児童生徒の言語概念や読み書きの力などに応じて、指導内容を適切に精選し、基礎的・基本的な事項に重点を置くなど指導を工夫すること。
- (6) 視覚的に情報を獲得しやすい教材・教具やその活用方法等を工夫するとともに、コンピュータ等の情報機器などを有効に活用し、指導の効果を高めるようにすること。

保有する聴覚を活用することと、子どもの具体的な経験等に照らし合わせて、語句の意味理解を促進し、思考へと発展させることが大切で、担任としては、子ども自身が言葉の楽しさを感じられる授業を心掛けています。



難聴 小学校

なんて言っているのかな？

<p>自立活動</p>	<p>自立活動</p>
<p>実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中度感音難聴で補聴器装着 ・分かりやすい言葉ならイメージをしながら理解でき、自分なりの言葉で伝えようとする 	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語の場面に合わせて、登場人物の言葉を考えることができる ・文に書かれていない心情や言葉を考えることができる
<p>実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おおきなかぶ」の登場人物の台詞や気持ちを考える かぶが抜けなかったときの登場人物の気持ちを考える 「よびました」のところは具体的にどう呼んだのかを考える みんなが考えた台詞を用いて劇遊びを楽しむ <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div data-bbox="279 1556 470 1702" style="text-align: center;"> </div> <div data-bbox="486 1523 869 1702" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>おばあさんが「いったこと」 まごの「いったこと」 犬の「いったこと」 ねこの「いったこと」 ねずみの「いったこと」</p> </div> <div data-bbox="965 1355 1412 1444" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>意味理解ができているか、確認することが大切</p> </div> <div data-bbox="901 1512 1412 1668" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>話す、書く、手話、パソコン入力、ICTの活用で、発表や話し合いの場面で表現する力を身に付ける</p> </div> </div>	
<p>担任の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害のある児童は、文に表現されていない行間を理解することが難しいこともある。そのため、児童が経験してきたことや知識と照らし合わせながら、文に表現されていない状況をイメージし、それを言葉で表現する活動を取り入れる ・登場人物の気持ちを推測する場面を意図的に設ける ・児童が話し言葉と書き言葉の違いを理解したり、関係性を踏まえた会話（言葉遣い）を意識したりすることができるようにする ・授業の開始前に、児童の補聴器を用いて実際に音声を聞いてみるなどして、補聴器が適切に作動しているかを確認する 	